

の蓮如上人御忌法要が行わ 日(日)盛大に厳修された。お迎えして去る四月二十四要が興行寺にて、前門様を 鸞聖人七百五十回 年に一度という宗祖親 二十三日逮夜に例年 大遠忌法

迎えることが出来、 仏教壮年会四十周年記念大 ることが出来た。 より役員の方々に準備をし のが天候であったが、 て頂き、万全にて当日を迎え 九時二十分より、 さて、当日一番心配された 本堂にて 又 晴天で 前日

)挨拶の後、事業報告。今後 仏壮の歩みについての決意

会が行われ、

分、笑って頂いた。 阪より笑福亭仁智さんを が述べられた。 十時より、 落語会が行 「お寺落語」 十迎

が先導し、境内参道には仏山門にご到着された。住職上がり、十時三十分興行寺 上がり、十時三十分興行寺住職と山田総代がお迎えに着にて前門様ご到着の為、副 行われ三十四名の方が受式時より、対面所にて帰敬式が 婦の役員を始め、 方々が多数お出向い、まず、 「華の蔵」をご見学された。 その後、ご休憩の後、十 午前九時三十六分福井 門信徒 副駅

昼食は特別懇志者八名と



福井県吉田郡永平寺町 電 話 0776-64-2744 FAX 0776-64-2791

新田塚道場(支坊) 福井市新田塚2丁目46-26 電 話 0776-26-1191 FAX 0776-26-7868

> 心に刻むことだった。 との保育の重要性を改めて 新田塚幼稚での幼児のまこ

月より明年六月まで伝灯奉 告法要が営まれます。

このたび本山では本年十

灯

奉告法要団参募集

方々に、この法要を縁として ご奉仕による役割の中、若 今回、特に地元のご門徒



た。 又、 走に舌鼓を打った。 より「そば」打ちも行 境内では、露天商のお店も 店し、子供達でにぎわっ 参詣の方も、思わぬ御馳 細川仏壇店のご厚意

出

代への継承~」司会は、副住 時間半開かれた。テーマは 「全員聞法・全員伝道~次世 引き続き、 「つどい」 が一

り易い。年を取ると科学的児期の子どもの方が受け 前門様からも「宗教は 4月25日付日刊県民福井誌に

いよいよ午

だいた。

指者の方よりお褒めをいた

門信徒の方が一つにまと

的なきびきびした働きも うお願いした。若い方の積極 く、率先して参加して頂くよ 寺との繋がりを持って頂きた

教務所長が入堂し、職、寺族、特別懇志も り総代、結衆(十四名) され入堂された。 寺族、特別懇志者、 前門様が山門より庭儀 雅楽の音と共に、山門よ 時四十五 、引き続 福井 住 ります。 の法要の意義あることにあ えを聞法して頂くことがこ まった行事であった。 世代の方々がこの尊いみ教 どの家庭もお内仏にお 今後は、幼児期より若

唱えさせて頂き、今に生かさ と共々、声高らかに正信偈を 法」にて、会場一杯の参詣者 が始まり、「正信念仏偈作 れている幸せを感じ、 一勝縁となった。 前門様お導師のもと法要

掲載) 引き続き中戸 より法話があった。 「おことば」があり、動行の後、前門様 随行長 より、

が、各々の立場で発表して頂壮、総代、幼稚園職員代表職が勤め、まずは仏婦、仏 幼児期の宗教教育の大切さ 境の必要性を話され、やはり 方より幼稚園期の子育ての環 ことで、 の意見を聞かせて頂くという き、それを基に参拝者の方々 最後に元幼稚園の保護者の 活発に意見も出て、

て、当日の模様を取材され、 掲載されましたのでご紹介し ます。

◇…永平寺町藤巻の興行寺 で24日、親鸞聖人七百五十回 大遠忌法要があり、着飾った ども約300人と保護者らの稚児行列が、 くりと地区内を練り歩いた=写真 興内外から大勢の家族連れらが参 帽子(えばし)や金の冠をかぶり、



に着けた0~11歳の子どもたちが、 らと一緒に地元の神社を出発、阿寺まで の約500なをゆっくりと歩いた。山門をく ぐった稚児行列は、本堂に入って焼香し

本堂では浄土真宗本願寺派の本山・ 西本願寺(京都市)の大谷光真前門を導師 大適忌法要が営まれた



りがとうございました。 謝のもと、ご奉仕いたゞきあ もお集り頂き、当日ご恩報た。又、役員の方には、何度

より感謝申し上げ、お礼とまの「愛山護法」の賜と心 業も完成、本堂内外も立派 に荘厳されました。 これ一重に門信徒の皆さ 法要並びに一連の記念事

興行寺 住職 法要実行委員一 徒 荒 総 Ш 代 周 同同学

ホームページのご案内

平成25年より、興行寺のHPが新設されました。 4月の法要の模様、桜の開花など、どうぞご覧下さい。

URD http://www.kougyouji.jp



携帯・スマートフォンの バーコードリーダーで 読み込んで下さい。

来上

二十四に、宗祖親鸞聖人この度、記念事業及び四

法維集編 りました。ご希望 稚児行列

事つとめさせて頂きました。 七百五十回大遠忌法要を無

要には多数の門信徒の

に勤修することが出来まし 方々がご参詣いたゞき、盛大

D V D 配 布

しています。ご希望の方はの方に一枚五百円にて配布 お寺まで申込み下さい。 月の法要関係のDVD

のが

帰りにてご本山へ明年三月十一日 名を募集いたします。 末日までお申込み下さい。下さい。ご希望の方は十月 を行います。ぜひ、 食付きです。当寺では四十 費用は一万二千円です。 団へ団 \pm 団体参拝 日

六年六月、如門主より法義

承するということです。一

伝灯とは念仏の法灯を継

専如門主となられました。 の伝灯を継承し、第二十五代

組では二回に分けて

前門様のおことば

興行寺の宗祖親鸞聖人七五 が出来ました。 まとご一緒にお勤めすること をはじめご縁の深いみなさ ○回大遠忌法要を、ご住職 この度ご縁を得まして、 当

かと思います。 界でありますからこれで安 あることを感じます。人間世 や施設の整備は誠に大切で スを聞くにつきましても建物 化工事をはじめ諸施設の整 するにあたり、ご本堂の耐震 しでも改善することは大事 心とは言い切れませんが、少 が行われと伺っておりま この度のご法要をお迎え 先日の熊本地震のニュー

物をあらためて開いてみま 興行寺史」という歴史の書 展に寄与されたこと、そして 荒波を乗り越えて宗門の発 ご法儀の種がまかれ、次第に まだ定まらない内に、当地に した。京都の本願寺の基礎が 以前に戴きました「荒川 戦国時代の

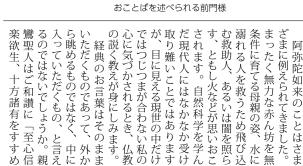
行

寺

新

合わせて歩んで来られまし 災、ご住職の戦死などの困難 近代になってはご本堂の火 たことなど、宗祖のみ教えを に直面しながら皆様が力を

ましょう。親鸞聖人が開か れた浄土真宗の特色は人間 れて人生を歩むことと言え た真実に照らされ、支えら この世を上手に生きること 頂きながら、先人の方々のご ではなくて、この世を超え 苦労を偲ばせて頂きました。 仏教の目指すところは、 煩悩がうずまくこ の知恵と慈悲のはたらきで指すのでなく、阿弥陀如来 要です らきである南無阿弥陀仏が 指すことです。ですから私 この世を超えた生き方を目 ある南無阿弥陀仏をいただ の行いではなく阿弥陀如来 の世を抜け出して悟りを目 のはたらき、ご本願のはた いて、この世にありながら



送りをするまで、私にとりま してはなんとも言えない緊張

興

前門様をお迎えして

実行委員長

Щ

田 啓

感で張りつめた一日でした。

物心両面にわたるご支援とご とともに、多くのみなさまの 大遠忌法要が終わり、安堵感 親修による親鸞聖人七五〇回 興行寺における前門様ご 気高さが感じられました。 前門様には何か近づきがたい らです。そういうことは抜き れの御祖母様はご姉妹だか 前門様は、今上天皇とはまた にしても、おそばで拝顔する いとこのご関係です。それぞ 十五年ほど前、皇居宮殿 みなさんご存知のように、

りましたが、福井駅のホーム のお姿を拝顔した)ことがあ の気持ちでいっぱいです。 いうより離れたところからそ で何回もお目にかかった(と 協力に対して、心からの感謝 私は、前門様には、これま お帰りの際お見

第 94 号

た尊いお姿は、親鸞聖人そ すます穏やかなご表情のよ のもののではないかという気 て私たちを導いてくださっ われる一大教団のトップとし うにお見受けしました。 |徒の数も約七百万人とい いSPがついていました 御門主のころは、常にいか 末寺は一万五百を超えて、 今はそれもなくなり、ま

まさに『ご勝縁』であり、あ 諸行事にめぐり会えたのは、 のもとに、法要を中心とする りがたいことでありました。 薫風かおるさわやかな好天

を思い出し、高貴なお方の かる機会があったときのこと 后両陛下に間近でお目にか の春秋の間において、天皇皇

オーラを感じました

前門様が来なはって か何ができるのか、どんなこ とが起るのか想像もつかな い事態に唖然とするばかり

総代

今井克

己

の法要前でした。

ま私が総代の一人としてお寺 なります。 ありがたいと思う気持ちに われたということに素直に 要が前門様をお迎えして行 親鸞聖人七五〇回大遠忌法 に関わっているこのときに、 ご縁をいただき、たまた

た、それが始まってみて素直

にびっくりでした。

違う経験に困ってしまうの

で手を引かれながら山門をく

門徒の皆さんもいつもと

ではないかと考えもしまし

の言い回しに困惑している戸惑ったりその難しい言葉 りながらお寺との関わりに 只日頃は総代の一人であ どれほど役に立てるの

ました、予想以上の手際の良

揮され無事成功へと導かれ んは、素晴らしい団結力を発 びに各地から参集した皆さ

見ていると頼もしいかぎりで さテキパキとこなす各担当を 種とうたわれました。 う心、これらを阿弥陀如来が 根本の願であり、力である第 ります。これは阿弥陀如来の 私たちに勧めて下さり、浄十 との心、信じ疑わない心、そ のでありまして、如来のまこ て真実報士の因となす」とあ てぞ不思議の誓願あらわし 真実の浄土に生まれる原因 して浄土に生まれようとい 十八願のお心を表されたも

阿弥陀如来

ば悪人が善人になれる訳で ちが乏しいと言われます。 尊い存在であると思う気持 生浄土の道を歩むことです。 育ちます。往生成仏という往 き方をしたいと言う思いが は有りませんが、自らを悪人 に出ていきます。善悪で言え を変えて、お念仏となって口 たり考え方を変えて、生き方 阿弥陀仏は私の身に浸みわ の本願にあります。そのはた その背景には人間を国家の しらされその場に応じた生 と自覚し、危うい私であると て私に行じます。届いた南無 らきは南無阿弥陀仏となっ | 自尊感情」自らを大切な 今日の日本では青少年に 救いの根本は阿弥陀如来

仏者にとってはこの根本 て育つと言われますが、念 は周囲の人から愛されてい は思いません。「自尊感情」 でなければ他の人も大切と なっています。自分が大切 手段や、経済活動の手段 ていると言ったことを通じ 随分自身に自信を持てなく に、阿弥陀如来に見守られ 用され現代社会が大人もう段や、経済活動の手段に 頼られている、役に立っ

ございました。 歩まれ「世の中安穏なれ」と れ、お念仏に導かれた人生を様が一層聞法、伝道に励ま り方、変化など簡単には解決 らしいことだと思います。 願っております。本日は良い 社会に広まっていくことを 言う宗祖のおこころざしが たいと願っております。 り、協力して取り組んで頂き を続けていらっしゃいます ご縁を頂き誠にありがとう しない課題が多いと思いま この度の法要を機縁に皆 当興行寺では様々な活動 若い方のご意見をくみ取 人口の変動、家庭の在

とを考えた時とても喜んでい いことであるはずです。 した、今後のお寺の色んなこ い子供たちがかわいいしぐさ 当日稚児行列が始まり、

ともよろしくご協力お願 当にご苦労様でした。今後 です。この子たちが大人に ることを願ってやみません。 る気持ち・関わりを大事にす ことを感じてお寺を大切にす 朱鷺りも、より身近にお寺の なった時少なくとも私の若い ぐる姿は本当に癒やしの光景 いたします。 最後になりましたが、

門徒の集まりとして寺内並

興行寺というお寺があり

いうことが大事であり素晴 ている、心配されている、と う御座いました。 りお許し下さい。本当に有難 ります。 かりながら、ご無沙汰してお でいっぱいで御座います。 下さいまして感謝致してお 又その他の記念品をお送り 難う御座いました。 申し上げます。 大に行われました事をお喜び 興行寺様にはいつも心にか 早速拝見させて頂き、 先日はその様子をDVD 親鸞聖人七五〇回法要が盛 吹く風も夏めいて参りま

⁷。感 有激

河内長野市 玉井和子様

こととおよろこび申しあげま 寺院ご一同様にはご清祥の御 入梅の候 ご住職はじめ、ご

ております。 詣りできず申し訳なく思っ れ慶賀の極みであります。 粛かつ盛大にとり行われら 四月には大遠忌法要を厳

お届けいたゞき改めてご厚情 先日は誠に立派なお念珠を

る毎日です。 観ながら妻共々手を合せてい に感謝している次第です。 過般頂いた法要のDVDを

りし略儀乍らお礼申しあげ 興行寺様のご繁栄をお祈

あわら市 大角嘉一様

每月十三日午前九時半

吊例布教

おそろいでお参り下さい。

めて考える機会となりまし

もしく感じました。

宗と関わる重要性について改

典では、自分たち壮年層が真

よいご縁をいただけたのは、

ありがたいことです。親と共

に手を合わせる姿を見て頼

仏教壮年会会長 柴田 喜代美 大遠忌法要に お参りして

お礼を申し上げます。本当はじめ役員の皆様に心から にお疲れ様でした。 折りくださった御前、若住職 なく幸せなことであり、お骨 をいただいたことはこの上も このような会い難いご縁

> らっしゃいました。自分が ち場で一生懸命に働いて 会の方々が、それぞれの持法要の日、壮年会や婦人

> > 仏壮会記念誌の中で、

お役に立てていないことが

い皆さんのご活躍ぶりでし印象的だったのは寺内の若前日の準備から参加して のか不安もかすめましたが、 た。その半面、このようない とだと大変心強く感じまし 中心的な存在となっているこ だけでなく現在もこのよう 誇るのはその由緒ある歴史 形の懇志をお寄せくださっ ました。また法要を迎えるま 心に取り組んでいらっしゃいた。どんな仕事もいとわず熱 心配するのではなく私たち い形が未来につながっていく な多くの人々が心を寄せる ていることを知り、興行寺が でに多くの門信徒が有形無 が熱くなりました。又、前々 き父や母がいられたらと胸 がぐっと身近に感じました。 ることをさせていただきた もお寺に参り、自分のでき ていますが、今後は少しで痛めて以来、出不精になっ 心苦しく思いました。足を たいと思いました。 謝し、恥じない行いを心がけ 坊守の末尾様のお導きに感 た。親鸞聖人が後ろにいらっ かれたことは、大変光栄でし いと思いました。 しゃるような気がして親鸞様

この場に、信心深かった亡

たにされたことと思います。 もきっとそれぞれに思いを新ましたし、他の参拝者の方々 今を生きるものがぜひともつ 仏教壮年会創立四十周年式 い、そんな気持ちを私も持ち なげていかなくてはならな 法要と併せて開催された 参加でき、阿弥陀如来様と 機会を増やしています。 かせることで、手を合わせる は、食べ物を仏様にお供え の役目だと思います。まず 信心をつなげることが、自分 し、孫におやつとしていただ 父や母の様に、次の世代に その孫が、お稚児さんに

からも檀家の壮年層にしてい 豊かな人生を送りたいもので えを味わいながら心穏やかで ないことで、せっかく身近に と考えるのはとてももったい た。寺参りは年を取ってから 陀様をいただいて、そのみ教 少しでも早く心の中心に阿弥 いい環境があるのですから、 りを結ぶよい機会になった孫にとってお寺とのつなが くお声をかけてくださって ませた子どもたちにやさし の孫も参加しました。赤ちゃ いました。お稚児さんは、 お稚児さんには、主人の弟 副住職様が、お参りをす

(3)

きたいと考えています。

今後ともよろしくお

されて眠っていましたが、弟

んなので、お母さんにだっこ

する尊い姿に感動すると共

仏前にて親と共に合掌 約三百名の稚児さん

宗教的な伝統行事を継

を始めており、行列の流れに 向けたが、すでに行列は移動

逆らうように途中から一人ひ

信徒である私が興行寺

な心が衰退しつゝある現

松** Щ 節 出となるでしょう。が撮ったビデオが 撮ったビデオが後々思い

します

が、僧侶の一員として、法要 な声で続きました。大坂の甥 を勤めたのは名誉なことで 心地よく、私も思わず大き 法要では、読経の響きが

本当にありがたいことです。 わせていただけましたのは、

五十年に一度の大法要に会

の道を進める機会をいただこの法要を通して、私もそ とができ…。」と、柴田会長 自分を顧みる機会を持つこ 向かい聞法することによって 寺で静かに阿弥陀如来様に けたことに心より感謝申し が挨拶されています。

有り難い 勝山元町 小林

慈

**

前門様に間近でお目にか

世話になるばかり。難しいも生きねばと思うのですが、おのご恩に感謝しながら力一杯 の支えを頂いたお陰です。こ 年満八十六歳を迎えまし 命は六十歳程でしたが、今 た。神仏は勿論のこと、多く 私が小学生の頃、平均寿

とを大変嬉しく思いました。 来、立派に相続されているこ 回大遠忌の年に発会して以 や活動の発表を耳にし、七百護寺発展を目指しての決意 典がありました。興行寺の 仏教壮年会四十周年記念式法要に先立って「興行寺 機会に自分の生き方を確立 要にご縁がありました。この の宗祖親鸞聖人の大遠忌法 てお参りしました。 したいものだと、元気を出し また、稚児行列では豊か

> 席の下、 ました。 痛感しました。 ていたご親教は最後にあり い」が厳修され、心待ちし 午後二時から前門様ご臨 「法要」と「つど

出来たら生き甲斐というもに心の大切を伝えることが だ。この生き方によって穏か 本であり、幸せの原点なん 生き方が人間の生き方の基 ました。「そうだ。説かれた 生きましょう。」と力説され 仏になるよう心掛けて力一杯 阿弥陀様のご本願を信じ、 な死を迎え、後ろ姿で子や孫 同朋社会であることが大事、 に心豊かに助け合って生きる 真に無常です。だからお互い の、高齢者の役割りだ。」と を寄せられた後、「この世は 前門様は熊本地震に思い

生を仕上げたいと心新たに 道を学びながら頑張って人 徒のご縁を大切にして、仏の 気づきました。 した次第です。 先祖に導かれた興行寺門

稚児の行列 下合月 黒 瀬 顕

治

のです。

長寿のお陰で再び興行寺

と聞いている。 姉など含めると千人近い人 した。稚児三百名、両親や兄 とかく稚児行列は盛大で

りません。

のであろう。 あらゆる祭礼に参加できる を純粋にもつ人間として親 世間の汚れに染まらない心 たものとして尊ばれてきた。 神仏そのものの身性をもつ 児は、昔から神仏のお使い、 しまれ、神仏の奉仕者として 私も外孫ではあるが、曾 社寺の祭礼に参加する稚

と不安になってきた。 に入ってしまっているかな… していったが、ふと既に本堂 とりの顔を確かめながら探 ところが出発地点近くで

ではないか。 だったら発見できなかったの から、おそらく、釉美だけ が同じような化粧と着物だ たので、安心した。 た。その後に両親も一緒にい 思わず両手をさし出して かかえられた釉美を発見し、 ら声をかけられ、その両腕に 「爺ちゃん!」と、孫の方か 稚児の行列は、稚児全員

り母親が苦渋している姿も みられた。 族では、稚児がむつかしがに一緒に歩いていた他の家しながら歩を進めた。傍ら ゆっくり、時に釉美をあや 行列に加わって本堂まで

お礼を申しあげなくてはな無事成功したことを心から ご機嫌はよかったが、本堂の本堂から出てきた釉美は との献身的協力をいただき、 の門信徒の方々、仏壮の人び では、その準備のため数多く 顔が印象的でした。 内部に驚いたのか、緊張した さて、今回の大遠忌法要

りして、お開きとなりまし を願いつつ、山門をあとにし い門信徒の安穏としあわせ た。興行寺の益々の興隆を誓 撮っていただきました。 園の先生達との記念写真を だいた仏壮の皆さんと幼稚 び、今回お手伝いをしていた 興行寺の寺族の方がた、およ ました。 前門主様方がたをお見送 法要のあと、前門主様と

興行寺の大遠忌に ご縁を頂

**

だいた。ぜひ逢いたいと思 孫(釉美)を参加させていた

稚児行列の出発地へ足を

高田

忌法要にご縁を頂き感謝申親鸞聖人の七百五十回大遠 し上げます。

みなそれぞれに地区の中で め仏教婦人会代表のお話。 せんでした。また後のつどい すばらしく聖人を忍び、 でした。雅楽と読経の共演が ました。法要も初めてづくし できないほど威厳に満ちてい 浄土を想わずにはいられま 衣の気品あるお姿は言葉に 厳かな佇まいと法衣です。 門様にお目にかかる機会を におきましても門徒総代初 頂戴することができました。 番感動したのは、前門様の 私にとっては初めての前

> 侑柊ちゃん 章馬ちゃん 泰地ちゃん

//

石川県 福井市

せて頂く。という先生達のお の生活の中で、阿弥陀様の本 葉からも感じられました。 最後に発言された幼稚園の な教えに思いました。それは 願を子供達といっしょに学ば 保護者の方からの感謝の言 話は、今の社会には一番必要

日でした。 幾世代も受け継がれてきた 法要を仕切り、盛り上げて の門徒衆が一丸となってこの も行き続けていると感じる を過ごすことができました。 す。私も本願寺門徒として、 とができました。そして大勢 前門様のお姿を拝見するこ 仏様の泉に肩まで浸かり一日 いる光景はすばらしかったで 「南無阿弥陀仏」は確かに今 今日は、この法要のご縁で

尽力された関係者の方々、 前、若御前様のご苦労感 最後に法要にいたるまで

初参式にようこそ

五月二十九日、宗祖降誕会

思いの強さと誠実さには本 教えを幼児教育に。」という園の先生方の「阿弥陀様の ました。そして、新田塚幼稚 の思いの深さを語っておられ おられました。なにより仏教 徒としての役割を自覚して のお寺の重要性と自分達門 当に心を打たれました。園で りがとうございました。 今回は遠方から来て頂き、 た。」とお便り頂きました。 本当にありがとうございまし 体験させていたゞきました。 というのを、この年まで知ら さってありがとうございまし まに報告、お参りした。 生を受け、いのちをアミダさ なくて、とても新鮮な感覚で た。恥ずかしながら、初参式 んの初参式が行われ、初めて に例年の通り、今年も赤ちゃ 「さっそく写真を送って下 《参加者の方々》 又、ご参加の祖母の方より 川上菜々実ちゃん

弥恵ちゃん

"

大野市

裕久ちゃん

//

富美ちゃん 正悟ちゃん

福井市 丸岡

一泊研修会

校、土曜学校のお友達六十た。ご門徒子弟、日曜学生の一泊研修会が行われ かりとしましたよ。 ピック大会、花火などで楽 ごした。夜は恒例のオリン をテーマのもと、二日間過 名が集い、「いのちの尊さ」 しんだ。お経の練習も、 去る八月四、 五日、



なさい。』と、記憶の中では生

だと決めつけていたわ。ごめん ン』ときて、『お母さん、庸祐 まっすぐに私を見る目に『ズキ いた事に『ハッ』として長男の

の御縁を大切に生きたいと思 母の願いが聴こえる様で、こ をあわせていた、今は亡き祖

合っ 7

主任

堀 端 洋 子

が出、先生方皆で考え合うと 研修の中でも同じような議題 頂き、少し光が見え安心して で、話し合いの道筋を教えて ち合わせに参加させて頂く中 直不安な気持ち一杯で当日ま その他たくさんのいろんな ばかりが頭に残り、前門様や さまが導いて下さっているの 言葉が浮かび、きっと阿弥陀 いるのですよ」と教えて頂いた いました。「全てがつながって いう不思議な時間が生まれて きたのと同時に偶然にも園内 数日前のご門徒さん方との打 でを過ごしていました。しかし かったらどうしようなどと、正 方々の前で、何を話したらい をしてほしい」と言われたこと 要についてのお話は、前々から をうけました。 だろうなという不思議な感じ いのだろう?上手く話せな 会』で何かまことの保育の話 理事長先生からの「゛つどいの なか実感がわかず、ただただ お聞きしていましたが、なか 親鸞聖人七五〇回大遠忌法 けてなかったら、私は今をど イス棒を食べていました。掃除 息子三人はソファーに並びア おそろしくなります。 うと想像してみると、とても んな心で過ごしていたのだろ 機をかけ終わり振りむくとア 夏休みのある日の出来事。 もし、おみのりに御縁を頂 お

陰さまの心で

思ったのです。とっても貴重 ミングでお参りさせて頂き、 まれていなかった。このタイ 年後の法要には?まず生きて でありがたいことだなと思い く意味って何なのだろう?と いない。五十年前となると生 う?なぜ今なのだろう?五十 とどうして私は今、ここにい 皆様とお参りしている時にふ つどいの会でも話をさせて頂 て皆とお参りしているのだろ た。』と私の心を見ぬきまし はぼくと思っていると感じ ないけど、ぼくの心はお母さん よ。』と嘘をつきました。『う が『ぼくじゃないよ。』と。 を一番信頼すると教えて頂いて んではなく、正直なお母さん た。いつも、子供は賢いお母さ ん。お母さんはぼくとは言って して、『これは誰?』と。長男 私の心は長男だと決めつけま

そして法要当日。前門様や

イス棒が一つ落ちていました。

を教えて頂きました。息子三

人が新田塚幼稚園に御縁を頂

で正直に話し合う事の大切さ た。その日をきっかけに、本音

した。私は怒っていないふりを

ます。これも先生方に親子共

にお育て頂いたお陰様です

き

早三十年がたとうとしてい

『お母さん、庸祐と言ってない

世代にて御縁を頂きました。

先日の大遠忌法要には、

のようでした。

声を代弁して下さっているか

のご縁でした。

思い返させていただけた二度

顔になった瞬間でした。

お焼香を終え、楽しかったと だなと有り難く感じました。

笑顔の娘に、家族みんなが笑

時代、生活の様子、生き方を見

いま一度、自分が生きている

つめ直し、苦悩や問題を受け止

鸞聖人や先達の願いに立ち り、本堂に入ると改めて、

帰る良い機会をいただいたの

『有り難さ』を感じた原点を

議題があげられました。私も が減ってしまっているというい人のお参りやお寺に集う人 その中の一人だなと正直思い つどいの会では、今現在若

> ŧ ます。 心の中で見ていて下さる。応たちは、毎年「阿弥陀さまは 援して下さったり教えて下 思います。でも当園の子ども ることは、やはり難しいなと まを感じて、日々手を合わせ す。大人になってからでは、 ているだけなのだなと。で を頂いたからお寺にお参りし さっている。だから頑張ろう 子どもたちのように阿弥陀さ た。そして大切だなと思いま たり、ご法話を聞かせて頂い 出会えて本当に良かっ たまたまこの園にご縁

めて思わせて頂きました。こ を感じさせて頂き、共に学び ちの声、言葉から阿弥陀さま として大切なことを学ばせて も、阿弥陀さまから見た人間 れ、又学ばせて頂きました。 の貴重な機会を与えて頂いた 合っていくことなのだなと改 ていくこと、又逆に子どもた した。今、私に出来ることは もらっているのだなと思いま ことでたくさん考えさせら を見つめ、子どもたちに伝え お話を聞かせて頂き自分自身 何か?私自身が阿弥陀さまの きます。そういう子どもたち と思う」と言って卒園してい 私もそしてお家の方

ありがとうございました。 ていただき、衣装を着せてい でした。 しかし、当日はお化粧をし

だけたのも、実はお御堂に入 たからでした。 性の方に声をかけていただい

まれて初めて心から、申し訳

保護者

由香里

ないと思わせて頂きました。す

まるでその方が阿弥陀さまの ました。『いのちいただいて の中にスーッと染み込んでき 命いただいたんやで大事にせ その感覚が薄れており、 「命いただいたんやのー。

今度は五月二十九日に親

『初参式』園長先生から『人 仏の子としてこの世に生ま

> 本園、第20回卒園の大 橋春奈さんのピアノリサ イタルが8月19日、福井 新聞社・風の森ホールで

> 春奈さんは東京芸大大 学院修了後、パリ地方音 楽院に進み、首席で卒

現在フランスに滞在

ロッパ各地で演奏活

しながら、日仏中心に

動を行っています。

行われた。

と心が熱くなります。お御堂

ら、これ以上の安らぎはない

の右側の大きな柱でいつも手

事の出来る人生があるとした

てお陰様の心で手を合わせる が、もし、頂いた人生がすべ

前 Ш 委久子

度の尊い

ご縁をいただいて

たく思います。 参列させていただきました。 生の娘と七ヵ月の息子と共に 稚児行列』に、私は小学三年 五十年に一度という尊いご縁 に出会えたことを大変ありが 『宗祖七百五十回大遠忌法要 四月二十四日に開かれた、

ただき、バタバタと準備が進 む中で、気付けば行列の流れ 途中、見ず知らずの年配の女 にのってただ歩いている自分 そのことに気付かせていた 阿弥陀さまの前に向かう

ありがとう』と園でよく聞か さった言葉でしたが、私の心 という息子に向けてかけて下 なあかんよー。 せていただいている言葉なの

せ、まっすぐな笑顔がありまし

と、そこには目をキラキラさ

に話してくれてありがとう。 ると、長男から『お母さん正直

だきました。 参式』にもお参りさせていた 会』に合わせて行われた『初 鸞聖人のご生誕を祝う『降誕 そんな尊いご縁からひと

私にはとても難しい事です

ながる。』とお聴きしました。 以前、『すべてはお陰様につ

本当に有り難い』というお 間として生をいただくことは を合わさせていただくこの 謝し、初めて阿弥陀さまに手 れさせていただけたことを感 をお聞きしました。さらに、

> 話しして下さいました。 弥陀さまの存在、ありがとう の生活を送る大切さを教えて 下さった方であること』もお にも見守って下さっている阿 『親鸞さまはいつもどんな時

どもを通してのご縁からです る幼稚園に出合えたことを子 生活を送られた親鸞さまの牛 うやく授かった尊い命。身を 感じさせていただきました。 る道しるべを教えていただけ とは百八十度違う大切な生き す。自分の物事の受け取り方 くさんさせていただいていま の心地よさを感じる経験をた いただいています。その結果、 ることを少しずつ実践させて くる中、自分の心を見つめる 持って命をいただくことの いような充実感や達成感など き方を教えていただけたこと が、改めて本当に良かったなと これまでには感じたことがな で、私自身自分の心と葛藤す 毎日いろいろな心が起きて いろいろな思いを重ね、

過ごしていたように思います。

近くの神社を出発する頃

られています。

ます。いつもこの言葉に助け う。ママ大好きといってくれ から育ててくれてありがと

稚児行列前の時間も有意義に

かな衣装に、終始ご機嫌で、

娘は、珍しいお化粧と華や

てくれてありがとう。○歳 れてありがとう。お掃除し てありがとう。洗濯してく

を合わせ、自分の心を振り返る 覚し、これからも阿弥陀様に手 され、すぐに大切なことが見え 生活を心がけたいと思います。 なくなる自分であることを自 どうしても日々の生活に流

稚児に参加

きる行事なので、 盛大な機会に参 いからこそ参加で き、嬉しく思いま 加することがで ん。大遠忌法要の した。子供が小さ

んのことを学ばせて頂きま

「ことり」から入り、たくさ

した。子どもと一緒に過ごし

一番感じるのは、ありがとう

子供の無病息災

という素直な気持ちです。

いつもご飯を作ってくれ

加護のもと願いま 素直で健やかな 成長を仏様のご

まで歩きました。山門をくぐ だきながら、ゆっくりと山門 ちは興奮気味でした。近所の 方々に温かいお声かけをいた た園長先生の姿に、子どもた 者たちが集まり、遠くに見え には、多勢の稚児たち、保護 ています。 ができ、とても嬉しく思っ もなく通わせてあげること 手術等で子ども達にはさみ がガンによる長期の入院、 した。年長の一年間は何事 しい思いをさせてしまいま 実は年少、年中と母の私

のお話を小さな時から聞い う気持ち、幼稚園での先生 もあたりまえではないとい 子供たちの優しい心、何で

活発表会等、自分のことだにも運動会、幼児音楽祭、生らこそだと思っています。他で学ばさせて頂いているか 園に通わせて良かったと心 ました。本当に新田塚幼稚 動しました。いつも先生方は こと、どの行事を見ていて感 せて一つをやりとげるという けでなく、みんなで力を合わ ていきたいと思います。 た事を忘れずに日々過ごし 田塚幼稚園で学ばせて頂い から思います。親子共々、 しいな、すごいなと思ってい した。その姿を見て、素晴ら 人を全力で過ごされていま 元気いっぱい子供達、一人一

ありがとうございました。

かおうとする歩みの大切さを めること、そして課題に立ち向

考える良き一日となりました。

がとうございました。 (平成二十八年三月卒園) N様

 Ξ



めてのお稚児さ

娘にとって、